

現代短歌分類辭典

第七十九卷

津 端 亨 編 纂

津 端 亨 編 纂

現代短歌分類辞典

第七十九卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辞典

79

昭和五十八年三月廿日発行 定価二、〇〇〇円

著者発行
兼印刷者

津端

亨

〒111

東京都台東区鳥越一―十一―八

発行所

現代短歌分類辞典刊行所

代表者 津端 亨

振替 東京 三一九三一―四
電話 〇三一八五一―九八六九

目

次

(第七十九卷)

いちだん(一団)	四	歌数	一	頁数	一丈あまり	一	三	頁数
いちだんーごとに	二		四		いち・チャーチル	二	〃	
一団地	一		五		一中学生	一	三	
一田圃	一		〃		一如	一	〃	
一断面	二		〃		一女性	一	〃	
一段落	二		〃		一陣	三	〃	
一単位	二		〃		一塵	三	五	
市路	咒		六		一途	三	六	
一地区	一		〇		一通行者	一	〃	
一軸	二		〃		一途心	二	七	
一地割	一		二		一途さ	三	八	
一地带	一		〃		一勤人	一	〃	
一丈	八		〃		いちづな	四	九	
一定	三		三		いちづならーざり	一	〃	

いちづならーず
いちづなり
いちづなりーき
いちづなりーけり
いちづなりーけれーば
いちづなりーし
いちづなる
いちづなれ
いちづに
いちづにーし
いちづにーて
いちづにーは
いちづにーも
いちづーの
いちづよき
いちづよし
いちづーらし

一 二 二 三 四 一 六 六 一 二 五 四 一 三 一 三 一

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

いちどに
一徳利
一読者
一読し
一どき
一同
一度
一処
一天下
一点
一帖
一畳
一条家
一条大路
一条大蔵
一条
一庭尉

六 一 一 一 一 二 二 一 一 一 一 二 二 一 一 一 九 一

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

一日分	一日まし	一日目	一、二町	一、二坪	一、二度	一、二日	一、二人	一、二年	一、二羽	一、二杯	一、二番	一、二尾	一、二分	一、二本	一、二枚	一如
一	一	一	一	一	一	一	一	三	五	一	一	二	一	七	二	一
二四	〃	〃	〃	三五	〃	〃	〃	二六	〃	〃	二七	〃	〃	〃	二六	〃
一、二輪	一にん(一人)	一人扶持	一日分	一人前	一念	一年	一年余り	一年間	一年位	一年後	一年ごと	一年草	一年三ヶ月	一年志願兵加藤豊	一年生	一年生(植物)
三	一六	一	一	三	五	一四	三	二	二	一	一	一	一	一	三	一
一六	二九	一四	〃	一四	〃	一四	一五	〃	一五	一五	〃	〃	〃	〃	一五	一五

一年中
 一年二ヶ月
 一年二年
 一年後
 一年坊
 一年半
 一年ぶり
 一年分
 一念発起
 一年前
 一年余
 一念力
 一のあがり
 一の兄上
 一の姉
 一の糸
 一の愛し児

一 一 一 一 一 一 二 四 三 三 九 二 一 一 一 一 一

一五
 " " " 一三
 " " " " " " " 一六
 " " " " " " " "

一のおほ宮
 一の木戸
 一の倉沢
 一の位
 一の子
 一の越
 いちのこし
 一の恋人
 一の座
 一の坂
 一の沢
 一の字
 一の獅子
 一の集
 一の寺門
 一の字山
 市野瀬

一 一 一 一 一 一 一 一 二 一 一 一 一 一 一 一 一

一三
 " " " " " 一六
 " " " " " " " 一七
 " " " " " " " 一四
 " " " " " " " 一三

いちばんに	一	二五	一夫婦	一	二九
一番乗り	三	〃	一分娘	一	〃
一番バス	一	〃	市房	一	〃
一番花	一	〃	市房山	一	〃
一番星	一	〃	一富士	一	〃
一番列車	一	二六	一不祥事	一	〃
いちひび(櫟)	二	〃	一婦人	一	三〇〇
いちひび	三	〃	一部隊	二	〃
一尾	三	二八	意路不到境	一	〃
市日	三	〃	一物	三	〃
いちび(青麻・商麻)	三	〃	一物体	一	三〇一
市人	三	〃	一部分	二	〃
市人等	四	二九	一浮浪者	一	三〇二
市比野	五	〃	一部落	七	〃
一微粒子	一	二五	いちぶーらし	三	三〇三
一瓶	二	〃	市振	一	三〇四
一部	六	〃	一浮虜	一	〃
一風景	一	二八			

一文 一文 一文章 一兵卒 一秒 一秒時 一秒前 一頁 一ページあまり 一瞥 いちべつし いちべつす 一瓣 一変化 一穂 一眸 一棒 一木

二 一 六 七 一 二 一 七 一 二 一 四 一 二 一 三

三〇四 〃 〃 〃 三〇五 三〇六 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

一墓域 一ポンド 一凡夫 いちま(市松) 一枚 一枚石 一枚板 一枚岩 一枚大石 一枚大戸 一枚硝子 一枚田 いちまいづつ 一枚二枚 一枚襖 一哩 一盲

一 二 一 一 一 五 一 一 一 四 六 二 三〇 一 一 二 一

三二 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

一毛
一毛作
市町
一沫
市松
一万
一万あまり
壹万幾千円
一万機
一万九十名
一万言
一万五千キロ
一万五千屯
一万三千
一万三千四百屯
一万三千円
一万尺

一 一 一 一 二 三 一 一 一 一 一 九 二 三 一 一 一

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

一万首
一万数千
一万五千屯
一万五千本
一万坪
一万屯
一万屯級
一万二千人
一万二千余人
一万日
一万二百二十三部
一万人
一万八千余り
一万余り
一万羽
一万羽鴉
一万八千

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

一メートル
 一メートル余り
 いぢめーぬ
 いぢめーはじめーぬ
 いぢめーられ
 いぢめーられーし
 いぢめーられーつつ
 いぢめーられーて
 いぢめる
 いぢめーゐーたれーば
 一面
 一面識
 いちめんーなり
 いちめんに

合計

哭 二 一 九 一 三 一 二 二 四 一 二 一 三
 " 三六 三三 三七 " " " 三六 " " 三五 " " 三六

三九四首

いちだん【名詞】〔一団〕

少年が浜に燃す火の一團の橙紅は澄みて岸べになびく②

淡彩の民族服の裳はウール楚にと一団降りゆきにけり③

土も木も静まり深き枯野にて喪の一団は饒舌ならず①

デモ終へし一団が素早く赤旗を巻きて雨降る街に散りゆく①

^{はたね}鋼の如き黒人女子の細き脚足^あ掻き鋭く一団を抜く④

人車^{ひとぐるま}しげきかたへに歌うたふ一團のこゑ天までのびよ⑤

楯と剣手にのせる兵の一團の前方を睨むるときその眼②①

朝鮮の旗立つる一団は土工らかしみじみと吾が声かけたきに②

朝鮮の旗かかげて乗り合へば貧しく自ら一団をなす②

東洋の魔女群駈け寄り抱き合ひ一団となりて泣き出しにける②③

乗りこみし復員兵の一団はつましくして上野に下りぬ②

— いちだん

田谷 鋭

井戸川美和子

富小路楨子

磯 幾 造

山田百合子

岡野直七郎

窪田 空穂

近藤 芳美

近藤 芳美

窪田 空穂

近藤 芳美

いちだん

トラックの上よりハンカチをふりながら送られてゆきし闇の女の一團④ 山下 陸 奥
内陣をめぐる生徒の一團の声高にと荒しき足音③ 鈴木 光子

女人まじる吾等の一団をやりすごし高くするどく声浴びせくる① 太田 青 丘

人間の一團を囲む位置にきて草食むけものメリノ一団種コリデール種② 井戸川 美和子

乗り嵩み伝馬にあふるる兵の一団手をふるがあたりつもとむる顔なり① 荒 木 暢 夫

乗り嵩み伝馬にあふるる兵の一団手をふるがあたりつもとむる顔なり② 荒 木 暢 夫

白米禍口に言ひ法に断たざりし一団の怯懦なかりしかな① 吉 植 庄 亮

白里より帰り来るバスに乗り込みしレヴェー一団一行十人あまり② 都 筑 省 吾

バスいでし直後に来たり口惜しがる礼装の一團は祝儀帰りか③ 相 良 義 重

微細なる一團の星の深深と光うるほへり未明にちかく③ 山 下 陸 奥

日の御埼うかぶ鷗の一団を船よこぎれば光りつつ飛ぶ④ 與 謝 野 寛